



人の傳で口伝や記のふ  
 和屋さん

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之五

東都 曲亭主人編輯



中輯第三十九

雲中をる 鐵撮棒  
 腰間る 栗柄刀

却説修羅五郎經任ハ廣庭小聚令一。身近死驍卒二百名を前小  
 立。後小後之の城門を推開し。暮直は馳出。寄の士の卒をあれを  
 見。驚破經任がやを捕か逃し。相喚。群立。賊徒を  
 よの右隊小受左隊は柱。些も怯む。一方をうち破。走脱。と  
 進。け。この真夜中より賊徒内外の戦ひ。鬼六五十五六。あ  
 たり。或ハ撃。或ハ逃亡せ。小のの。あり。經任小後  
 衆賊が。死。暴隊あり。寄。提。亦是。た。免。の敗軍。小士

1278  
20

村田

イノトサルニツウミツウイネ  
Minvalin

卒の戦歿少くわへ今光仲小後めく柵中入りの兵三百騎も足ざりけり。  
かまは是敵射方その軍勢は甲乙あらずと寄るに数度の苦戦小疲勞て  
人馬の進退如意なきも今又賊の暴隊を逆と心むるに早ととも短兵  
急は突立なきも左右へ披死靡くふるん賊徒の沿るもとあてて進み推  
破んと競蒐れは寄るもあてを破らんと踏留りて戦ども一進一退勢ひ  
異る力同トかまは佐味下河邊が勇あつても争ひつてぞんえうける  
浩処小曩は義秀の謀小後めく林の中引籠り鯨波を揚さす。四十  
個の囚兵の奇兵の計累その圖小入りと柵兵數撃も寄るの軍兵二  
の城戸中へ乱れ入ぬとんとくまはさふ亦俺們も聊分捕功名志す前度の  
恥を雪んとく食樹下へ出く見れば賊兵ホが脱捨する兵具あり畧械あり  
こと物ゆるりとふく取と犇と身を固め目今寄るに敵撃もあつて

Uial L. P. M.

頻小進む賊軍の右隊の方より不意小起り咄と嘯く撃く蒐れは賊徒へ  
あまは駭遠く驚破朝夷がゆるるを殺さすそと罵りて忽小乱と  
騒ぐ敵小足を立させそと光仲頻小士卒を奨息をも吻せ攻より  
けんば衆賊いよく辟易しくこの城戸小引籠り再び防げと散動く程小曉  
この風烈しく兵火四方小散乱し高樓大厦一字も遺るを煽るとく  
燃揚まはこの城門中も餘炎根すも猛火の賊徒の後をぬかぬと進  
退度を喪りて進んとつるの寄るの矢石小命を隕れ退んとまはるの  
煙小嘯びく伏せ死骸の地上小横すも河原の蛇籠小似しと問  
水も火も滅めり況又後堂小迷ふも煙小包は敵小焼る婢兒們的  
泣叫ぶその声遙小ゆるる衆悪兇黨數を盡すも地獄の呵責小阿  
鼻焦熱の苦艱もかくそ有けめと想像するも程小至任の

憑切たる二百個の隊兵大々撃つふければ唯彼鴉夜叉鶴夜叉  
らぬ克賊十餘人を騎馬の左右に立ち六尺餘の鐵操棒を風車  
の如く振る近づく敵を打折げが兜も腦も共ふ摧けつ死ぶるものな  
らりける只その驍勇のまゝも渠が進止するより九一丈むらこの間  
黒雲深く立掩り或の隠し或の頭一電光閃れ走り人の眼を射  
けず狙撃んとするものも近づく小樹ありて射て落さんとするものも  
彎曲的をひき只その棒を喫いと用心をなすものも鶴夜叉ホを  
たつと氣流ひく敵退げがこれ進み競ひかたの雲も隠れ漸く後園の  
くさくさ光と立遠く高利高吉頻々焦燥くひく士卒を罵毀し前を  
遮り後を射り撃んとすとと雲霧の外より物もあはれ如くみま忙然と  
頂の上より閃く徑任が鐵操棒小高利を馬の平首打碎と餘れる棒小

一個の軍兵右の隅打放さく脱向へ礮と飛驅り其処は平張り馬共  
侶も倒しけり高利吐嗟と下立ちるをも引退けへ高吉も古を掉く又  
桃く追撃も佐味下河邊が愕然と當がくんえ士卒への  
は氣後とく其知は彼知と罵騷ぐ嵐の庭の群雀片を避て鴉夜叉  
引るも知る知しけり光仲遙かよはれんけり経任を走らるる毒を  
遺すものも軍功の全う命を預り瘵を負ふ士卒の苦戦も  
空事あらん天神地祇に近江小賀明神當國の膽澤の神社  
鎌倉八幡大神宮神明擁護の奇特のまじく逆賊退治のさし  
心中小初念の馬を向近く乗居て雷上動の弓と直兵羽の任  
刻く満月の如く彎固めても敵へ何れと定めをるる雲の真中へ  
切て度ば弦音と共ふ心と雲へ煙の滅る如く敵の入馬へ頭

ころんと只彼鶴夜又へ吭を項へ射徹さし鏃あまると経任が乗る  
 馬の胸板へ骨を摧れ縫まへ人馬共侶仰反く鮮血小塗れ倒ま  
 る。目さき敵あつねども昔もめや頼政の弓箭の徳徳揚馬怪鳥小  
 象も鶴夜又へ雲の絶間小射らまると亦是脱とぬ名詮自性射方も  
 敵も阿となると齊一驚嘆せまると経任既小馬を射させまると俣直  
 軀と下立程小光伸を敵を認め透もあせげまると頼二の箭前ハ則  
 無声の水羽は矢声を被く礮と射る経任も亦眼を中頭を傾け力を  
 縮く避んとまると暇まれば左の臂小ごとと立ち戯まると肘推曲く右  
 へ矢を引抜つ流る鮮血を物ともせまるとその箭を發矢と投返せば射る  
 こそを不思議の煉剽疾く光伸の面をさく肉を食らう矢  
 弓のく丁と落ち落ま送小得る武藝の奥妙甲乙を死小似まるとも

経任竟ふ術破まると刺矢傷を負へ高利高吉二騎相並て鋒難刀を  
 見し道へせと馳る前後小後小諸軍兵遠れぬを横矢を射りて  
 近死ハ刃をもち振く競ひ鬼も光伸も只管旗を進めけり。さまた又  
 賊兵ホハ脱まるとと心ひえ二及あまを退れ路次いと決死築垣の辺小  
 齊一踏駐り且防戦まると経任とをバ人もうまむと鴉夜又を先小立  
 しく金撮棒を尾落めり。突立後関のかまるとゆ程高利高  
 吉信と刃く追懸撃んと焦燥ども石をりく築籠る萬年垣の間で  
 賊徒小防死前と小敵まると速小殺崩まるとあま松まると  
 賊首経任をうち漏れ欬と敦固ハ士卒も俱小奮戦しと推破まると  
 足を跪前後を其刃争ひつ瘡を負ふめり。あまかまるとける。経  
 朝夷二郎義秀ハ量ふ二の城門の邊まると賊徒を撃打殺ら寄りの

軍兵柵中小をもち入りぬ。とてくけき。嗣忠が逃る。頻に進む。呼留め和主へ何と名の中へ。日よこの柵を火攻せし名を取らん。この為まき。只文遊の義小仗。吉見冠者を救んとあり。されば冠者を救ひ出し。賊徒をヨク殺し。遺る。経任のまき。寄る。ゆかり。援を獲る。中へ。柵小入りの。又彼小先。経任を。人の功を奪ふ。似たり。勇士は。二の城門へ寄る。彼等小経任を。天誅の。後関の。堤防の。先。快け。又切れ。退死。柱。経任。遂。後関。脱。去。光。勢。ひ。嗣忠。

立あぶ。鋒小携。遺さ。賊兵。四十五人。過。垣と垣。間。防。進。む。と。経任。脱。今。これ。も。撃。後。悔。其。小。立。と。誘。多。の。け。直。走。下。下。鋒。指。経任。を。避。進。む。ゆ。義。秀。の。光。景。を。見。れ。騒。氣。色。も。意。面。倒。る。奴。原。を。入。と。嗣忠。の。亦。唯。弱。虫。共。と。吐。け。起。塵。ち。拂。ひ。中。を。隈。防。り。立。當。下。馬。艱。嗣忠。を。経任。小。向。近。た。賊。任。任。て。是。瓜。知。る。や。吉。見。冠。者。譜。弟。の。家。臣。馬。艱。標。吉。郎。嗣忠。朝。夷。戦。の。隊。小。隸。く。真。夜。中。の。働。け。聞。も。去。つ。ん。見。も。去。つ。ん。天。羅。網。を。入。と。又。切。れ。退。死。柱。く。経。任。遂。後。関。脱。去。光。勢。ひ。嗣。忠。

朝夷四編卷五

五

うらんと大に怒り。彼追拂へと敦圍哮る。声をもたせ。鴉夜又を大  
刀を真額に抜翳しく走り。蒐れが嗣忠へ妨まかすと丁と突く。鋒を世茂と  
受留めく下を拂へ。跳揚り又突出せば。身を反り少選へ挑し。鴉夜  
又へ合さう大刀を。夏丁と巻落さすと。怯む。透さすと。鎬を嗣忠が鋒に  
乳の下串まき。矯小著さう木兔の頻鳴如く目を剥く。仰氣小反り。死  
けり。その前小寄りの士卒へ彼十餘人の賊兵を遺さく。破伏せ。高吉高  
利真先小経任を追蒐す。佐味高利さふあり。下河邊高吉マ小あり。  
と名告懸。ここ。嗣忠共侶三方より。推取籠く。勢んと。経任のま  
怒り。鐵撮棒を打振。右小當り左を拂。此も撓む。戦ふ。光景。漢  
末の呂布單騎より。劉関張小敵さう如く。亦是毒蛇の谷を繞り。こ  
虎を啖んと。その勢ひあり。嗣忠高吉高利ハ怯し。さふあり。ねむも。その

梟雄怪力小當る。さうもあさ。短鋒も大刀も打折。さう。危く  
見え。光仲更小士卒を進め。八方より。箭を飛。射て捕んと。つと。も  
経任のれも撓む。雨より。撃く。飛ぶ。征箭を彼棒を。打落さふ。  
適その身立もあさ。實上。鎧を著さう。故ゆ。竟小亦裏を被す。寄  
り。右小撃んと。左小。遠然と。左小あり。これを  
前小撃んと。と。俄然と。後小あり。その棒小中ら。肉破れ骨  
砕け。け。け。さ。さ。これ。寄り。士卒。勢。れ。一個の  
敵小撃立られ。さ。さ。ひ。靡。度。と。崩。菜垣の。引  
退け。経任。追捨。走り。前小直軀と立。素肌武  
者。是則義秀。あり。大路。狭。立塞。勇敢無雙の勢ひ。小経任  
名。鐵撮棒。合

月五日 角末五

直せば義秀信と疾視く妖賊途とも路ある。義秀既小なり。小あり。汝を  
俟と考ふ。やと。いれ。ゆる。あ。い。と。冷笑ひ。原来。汝が。朝東。ま。致。目。物。も。せん  
と。身。を。ひ。ら。う。く。掛。声。悍。く。打。棒。を。閃。り。と。外。せ。が。踏。ひ。く。微。塵。小。ま。れ。と  
又。打。か。る。棒。の。真。中。丁。と。合。は。る。と。と。と。と。経。任。あ。ろ。遠。く。引。放。さ。んと。曳。声  
が。引。も。く。此。も。動。う。む。と。朽。や。と。一。身。の。力。を。左。右。の。巻。小。入。ま。く。  
息。を。限。り。引。合。さ。り。寄。ま。の。士。卒。へ。これ。を。見。ま。酔。ろ。が。如。く。醒。ろ。が。如。く。箭  
を。射。し。げ。ど。遠。卷。と。う。ち。守。り。て。を。居。ろ。け。る。義。秀。の。息。の。隨。小。経。任。を  
疲。勞。ろ。遠。を。見。合。し。也。と。声。ろ。く。左。邊。へ。礮。と。引。捨。と。ば。経。任。を。棒。ろ。  
共。小。七。尺。あ。ま。り。怪。形。を。輾。ん。と。踏。り。と。る。と。棒。へ。こ。が。ら。ん。と。あ。れ。と  
途。あ。る。と。小。捨。ら。ま。り。あ。ま。を。念。や。と。焦。燥。の。大。刀。抜。翳。く。後。方。ろ。  
砍。ん。と。進。む。刃。の。光。小。義。秀。を。か。り。見。ろ。と。見。ろ。と。引。抜。く。俱。利。伽。羅。丸

降魔の利劍ハ勇士の刀尖丁ニ破と砍結ハ銳死大刀風ハ四下を拂と挑  
戦ハ程トその義秀嘯と閃と刃と共ニ経任が首ハ地上ハ礮と落軀ハ  
高く筋斗とてあ。揚。る。鰐。腰。突。く。投。ら。く。如。輾。ひ。ろ。寄。ま。の。光。仲  
高利高吉士卒或ハ弓弦を鳴。胡。服。を。敲。死。く。感。む。ろ。声。要。時。ハ。鳴。も  
止。ぎ。り。け。り。考。れ。た。義。秀。ハ。絶。く。誇。れる。氣。色。ろ。く。刀。を。腰。小。拭。ハ。納。め。く。  
遙。小。寄。り。さ。り。招。死。各。位。送。小。散。動。を。禁。め。く。静。小。こ。が。ら。ん。を。使。け。  
経。任。ハ。首。級。ハ。汝。達。ハ。月。来。欲。せ。り。め。ろ。ま。と。兼。倉。へ。齎。し。と。勸。賞。ハ。頑  
れ。く。こ。ま。の。只。友。の。為。國。家。の。為。又。民。の。為。ハ。已。と。を。め。も。此。奴。を。殺。む。必。し。も  
寄。り。援。け。く。名。を。取。り。賞。を。徵。ろ。と。と。と。と。彼。鐵。操。棒。ハ。又。用。る。  
より。あ。れ。が。分。捕。と。ろ。と。喚。ろ。と。と。件。の。棒。を。擡。取。り。け。り。と。輕。快。小。引。提。と。  
後。園。の。ろ。走。る。ゆ。を。光。仲。頻。ハ。慚。愧。く。下。河。邊。高。吉。り。と。義。秀。を



義秀一喝  
しる経任  
を斬る

朝の夕



佐味高利

経任



光仲

つね又首級

馬

下河原

之

追せし何れにたぐん及ごとく徒小還り来ぬまはいつく心安をもど馳し  
 嗣忠を召近つけくその素性を問ひその武勇を嘗その火攻の計畧を  
 訊る小嗣忠ハ義秀が籠姫を救ひとす一更の趣更小義邦を授けし  
 賊徒を撃靡けり為伴廣光亦かくのまでも遺るくの色を告ぐ光  
 仲竹く且歎び且感嘆しく已まざり又義邦を迎んとく下河邊高吉と  
 馬兼嗣忠を遣しけりこの時天ハ云々向明とる程小経仕が年来土民を  
 虐く奢る隨小美を盡せ大厦高樓ハ燒落く二三の城門の間守  
 屋西三軒と兵糧倉の之残りし光仲伴の守屋入る経任が首級を  
 実檢し更小雜兵亦部一隊ハ餘骸を滅させ又一隊ハ  
 兵糧倉を開し士卒の為小飯を炊せ騎馬小勝を使を擇く鎮守  
 府人遣し経任誅伏の趣を廣綱小報知せけりかち折る城戸四郎武

詮水草太郎五昌之ハ六十餘個の雜兵小生拘の賊徒を牽一采の神  
 井鬼六が首級と共小大將の実檢小入りし各苦戦の為伴及武詮小  
 後ハ十個の勇卒が戦没の顛末を詳小告る小光仲竹と潜然と  
 涙含まじ感嘆し現今曉の戦ハ小鋭を突堅を劈れ命を鴻毛より輕せし  
 二が隊兵ハ引けども誰う又この両勇士の右小出りぬあらんや城戸と不  
 思議小萬死をゆく力ハ小を力く幾百騎の敵を内とる殺崩し刺  
 賊將吠又が馬の脚を薙倒し佐味氏小その首級を取せしハ勇あり謙  
 趙子雲が風ありといりまう水草ハその勢六十餘名ハ寡兵を力く賊軍  
 の四百餘騎を蒐散し賊將猛虎が首級を獲く四郎共侶復讐の宿志を  
 遂ハ勇ありか馬孟起が風ありといらんかち折る城戸四郎小後ハ

中ふ紛れ入り其れ小命を預りたる彼十個の壯夫を惜み餘りあつたれ親  
 ありめの子ありの妻ありめこれを扶持し飢寒の患ひあつたれも有らば  
 武功ありと賞まされ武詮昌之頭を擡某ホ幸のふ父兄の怨を復せしめ  
 母嫂の讐敵賊將蘇塗暴道にいぬる日横死せしとゆいけがは遺骸くいと  
 必のりむくく嘆息とこの孝その義小雜兵やと感佩せしめあつたけり  
 却説高吉嗣忠ハ黎明の比及小後関のほりゆり義邦廣光小逢  
 うが嗣忠ハ進を迎へ云と告るよらん高吉ハ恭しく姓名を告来意を  
 速く先小立後小後ハ誘引し守屋小来ハ光仲遙小こは瓜刃を慌忙き  
 出迎へ冠者尊體恙あらや二二も一別以来あり且あらとと取  
 上座小詰ととも義邦ハ尚あら解ねばうちえつものそののいふを廣  
 光ハ憐れむと簀子のはり小膝を進めと光仲ふち對ひ昔ハ媼子今ハ

又賀逆賊退治の大將小かやアえハ嗚呼とぶげとどろ内忘れもせど  
 和君か目も冠者を冠者ととえつと現軍功ハ高かす一あつたも信  
 義ハ闕り去歳の暮春の厄難小勝澤のほりゆりや冠者小後れり  
 と加賀へゆゆりゆりや去藏の大田小世を避る廣綱めハ値得せや  
 友を捨る榮利を討る或信といふは義とせんかかきけり友達の  
 舊交をのりととと主君ハ義ハ北月とく榮利を討る才あらば  
 危難を信夫の館小避る更小逆賊の毒小小溜さと夫婦屋を受  
 けとと義を守りゆり祐神あり朝夷生ハ救れと遂小時百文  
 とと託ぬ會誓の恥を雪る小足と足忍苦くく実檢しと鎌倉へ  
 披露ありとそれをとと推辞めハ秋のふそとと忍とと光仲怒まる亂色も  
 ありととと嘆息一縁故を詳しせねハ恨らととと理りあり士卒側小

あつとぬふとも。口が非を飾る小あつとぬ。されど口親怨を解か  
 便佞利口小任さるめのとどろきん巳に成得ざり。こころ人を下河辺  
 小三郎高吉をよく知。これ小代ア。説おむ。と父高吉進。出く  
 廣光小うち對ひ三二の怨言よりあれ。賀殿の友を捨てる。采利小  
 走。不義あえんや。さる其豫さる見聞。隨小告げ。飲。賀殿ハ  
 勝澤。時夏ホを防留め。一死戦ハ難義。及び。うとも驟雨。小より  
 必死を脱。冠者を遠く逃。えん為小東の。又走。里。死。かく。又時夏ホハ  
 鳥鵲川。やが。追逼ア。再び難義。及び。と。義秀の養母。巴の尼。藍  
 玉院の名代。小信濃の善光寺へ。系。り。か。る。圖。ら。ど。ま。小救。ま。く。更。毒  
 蛇の臆を脱。鳥鵲川を涉。せ。む。心。東。小あ。ど。ま。巴の尼。別。を。告。て。ん。ぞ  
 冠者。小追著。んと。あ。お。む。寺。法。あ。ま。放。遣。る。と。を。許。さ。れ。ど。ま。ぶ。と。く。再。生。の

恩あま。外。去。ん。ハ。ま。ん。が。あ。く。あ。ろ。ろ。あ。ら。む。も。武。藏。あ。る。太。田。の。藍。玉。院。ハ。伴。れ  
 昔。昔。蒲。尼。公。と。廣。綱。朝。臣。の。見。参。小。入。り。あ。の。い。ん。こ。そ。こ。ま。ま。く。ハ。高。吉。が。傳。  
 聞。さ。る。致。さ。り。か。く。賀。殿。ハ。次。の。日。尼。公。小。暇。を。請。う。加。賀。の。小。松。小  
 致。さ。る。數。日。冠。者。を。索。り。か。く。佐。味。ハ。内。内。彼。地。小。在。る。ぬ。べ。そ。の。消。息。を  
 知。る。小。う。あ。り。折。り。追。捕。の。嚴。命。下。ま。る。巷。ま。高。牌。を。掛。出。し。こ。ろ。か。ハ  
 さ。さ。り。あ。り。人。の。所。在。を。穿。鑿。せ。れ。り。身。の。措。所。さ。ま。小。再。び。武。藏。ハ  
 脱。れ。来。り。昔。昔。蒲。尼。公。小。扶。持。せ。れ。り。玄。歳。の。夏。の。る。り。れ。さ。て。こ。の。條。ハ  
 眼。前。小。高。吉。が。ん。ろ。所。へ。こ。そ。の。後。ハ。箇。様。々。如。此。こ。の。義。小。る。る。廣。綱  
 朝。臣。又。愛。顧。せ。ら。る。且。見。姫。を。妻。せ。ら。る。絶。さ。藏。人。仲。家。の。名。字。を。言。え  
 る。と。か。ら。ぬ。ま。ぬ。あ。れ。ど。も。賀。殿。ハ。舊。文。を。送。忘。せ。ど。冠。者。主。後。朝。夷。の  
 の。往。方。を。も。ん。懷。あ。ま。る。苟。且。の。言。の。兼。小。も。い。ひ。出。る。ぬ。日。ハ。あ。ら。う。ま。れ。か。る

故小此度經任誅伐の台命を稟多のり。その情愿小あつねども逆賊を討滅しく冠者を救ひ公私両多々面目あえんとつらと人の性  
 小の差別あり心の亦多るのあどと豈まのめ賢ありとけ小佞奸と多るめ  
 あらんや願多主後疑心散しく朋友の義を全一人多るる自他の幸多え  
 と緯詳小説論せ光仲ハ又死するも以釋之額小加え三二疑ひまぶ解  
 ぶ冠者何と多るの尚高吉が言信がくハ駿河前司小向多る家  
 臣と外舅の言葉ハ證小多ると思ひ多る巴の尼小再會の口を俟よつと  
 外多る初ハ井平あつねる疑ひ受まれば勅擇取れと武士の  
 數小も入りより名利のあつねる志の仇あり多ると嗟嘆しくを多る  
 久まハ廣光ハ後悔の頭を雲時擣るる義邦も亦慚愧しく席を降りて  
 貌を改め某主後愚癡あり疑ひ良友を誣んとせり。

首と目あり。曩のハ下野を去りて仇を防ぐ危窮を救れ今又  
 和君の武功あり國家の冠身の讐あり妖賊經任滅亡下賸時夏を替  
 とり聊恥を雪めり。莫大の恩義あり。縦疑ひれりあつとも恨む死  
 りとあつね殊更過言小及びハ廣光が疎忽あり。渠小代りて勸解  
 侍を之礼を許さる多ると賄話らと廣光ハ額の汗を推拭ひ某多の  
 浅しく所成も憚らず。外多をも首さる。失敬過言。駟も亦及びその  
 罪萬死小當る。御家臣の明辨あり疑念ハ氷の玉解り。軍法小行ハ  
 ると一毫も恨み諺てしへと席を避く陳ぶ光仲喜悅の眉を  
 印らんと又吉見主後を舊の席小著る。更小嗣忠武詮昌之末を近  
 冠者ハ心意ありと當坐小疑心を釋しハあつねる多る  
 四郎と太郎五ハ日より友を多る志を知つとあつねる多る

武詮昌之ホハハろ成ゆく小膝を進め。やふ義邦小拜謁。と。恙あらんか。ひを  
 速さく光仲の志。舊文今小等用ま。只速小義邦を救とんと。心こ。し。  
 事の趣成。さろゆ。光仲も亦武詮昌之ホ。鎮守府の城を攻。し。し。り。  
 神井鬼六を撃。し。し。し。その武勇忠孝の他。捷。し。し。を説示。せ。義邦の  
 後悔。く。廣光嗣忠ホを。ん。ろ。は。達。も。い。ま。ど。識。ら。し。現。四。郎。と。太。郎。  
 五。ハ。コ。の。し。と。莊。司。許。寓。居。せ。し。り。己。前。より。正。法。寺。の。技。城。に。在。り。と。傳。  
 せ。し。る。の。と。ろ。ま。り。對。面。ふ。り。な。か。り。し。その親。み。り。この子。共。あり。領。へ。この春。  
 江。二。二。の。鎌。倉。へ。赴。く。と。ろ。馬。糞。標。吉。の。越。路。へ。ゆ。く。四。郎。太。郎。五。共。侶。と。  
 皆。圓。山。の。館。小。あ。り。信。夫。の。翁。も。戰。歿。せ。し。篋。姫。も。賊。徒。不。取。ま。し。悔。て。及。  
 ぶ。ぬ。り。の。ゆ。え。と。又。今。さ。さ。小。送。恨。不。し。と。い。の。小。廣。光。嗣。忠。ホ。も。慄。然。と。り。  
 眈。を。伺。し。又。只。武。詮。昌。之。ホ。が。い。の。小。拔。萃。と。忠。勇。孝。義。を。美。談。言。て。已。さ。り

けり。當坐の問答果。く。佐味竺内高利の幕の蔭より進。み。吉。貝。主。後。小。  
 對面。し。さ。い。の。中。某。冠。者。と。舊。文。あ。り。美。里。の。厄。を。救。ん。る。將。軍。家。に。  
 請。ま。う。軍。監。を。さ。入。兼。り。追。討。使。の。後。小。從。の。既。小。素。懷。を。遂。し。の。秋。こ。れ。は。  
 ま。は。め。あ。り。さ。も。冠。者。の。時。夏。小。い。と。誣。ら。と。め。の。比。某。許。わ。ろ。當。小。脱。と。  
 去。り。多。の。し。後。こ。の。り。鎌。倉。小。出。陣。の。前。日。小。藏。人。め。小。使。と。り。え。さ。づ。れ。某。  
 官。途。小。進。と。小。松。の。郷。に。在。る。と。ろ。を。豫。く。告。ぐ。り。ひ。あ。り。日。夜。官。  
 務。小。暇。と。く。人。を。苦。し。め。り。その。と。と。ま。づ。の。夢。め。り。冠。者。の。厄。難。面。を。與。て。  
 今。青。雲。の。時。到。り。相。伴。と。く。鎌。倉。へ。歸。參。の。日。小。程。あ。り。し。ゆ。く。い。ま。は。入。  
 う。と。慰。め。く。且。敬。と。れ。ば。義。邦。頻。小。謙。退。と。く。敢。儲。の。席。小。を。下。す。  
 驚。才。小。り。猶。且。恥。あ。り。め。る。小。諸。賢。の。愛。顧。を。世。々。と。か。く。の。い。ふ。は。い。ふ。は。  
 過。り。和。殿。に。在。鎌。倉。と。り。代。夢。め。も。知。と。り。と。玄。々。歳。に。朝。夷。生。か。介。

あるとありた玄歳こぞの某朝夷あまのひろ廣光ひろみつみふ小松こまつへと走りはしり。主従しゆじゆ朋友ともありふ。  
あるあり比ひの千辛せんじん萬苦まんくも今又いままた全聚ぜんじゆとばかりごとく如ごとく夢ゆめの如ごとくいふ。  
ひもろ。昔後むかしの樂たのしみと真樂まらたるため好意こうい謝あやまるふ餘あまりありのいふ。  
回答こたへをさると高利たかの坐まの羞はづく頭かぶを拍たその宣のたまめ胸むねを。和君わきみと三三さんさんの  
あふいふ。藏人くらひぬる。朝夷あさひらあり。いづも向むきとも辭ことをいひと小辭こことのあふと面目めんめ  
なり。と勸解こんげごちく玄来こゝろ話かたる舊友きうゆうの笑坪わらひの會あひ廣光ひろみつも佐味さみが今亦いままた隔へ  
ある志こころを嘆賞たんせうしていふ。嗣忠すいしゆ共侶きよ小武詮こぶせん昌之まさゆきと向後むこうを契ちぎて送代おくり小  
忠勇ちゆうゆう孝義かうぎを答こた言ことらる。辞ことのくむく四下よつした小近こぢ死し士卒しそとく耳側みみでち  
聽きつ得えくたのめり時ときたるかも友ともありかもと讚美さんびせり。

中輯第四十

靈佛の菜摘籠  
豪傑の葛藤索

却説くつせつ義邦ぎぱうの廣光ひろみつ小齋せうさいなる刀野たの太郎たろう時夏ときなつが首級くびぎ小分せうぶん捕との大刀たいたうを添そて  
實檢じつけんを請まをせしいふ。光仲ひかりちゆうこまを受納うけなめく。その武功ぶくうを稱賀せうがし感悦かんえつのまるとあり  
あや假かり小寛治せうかんぢの佳例けいれいふ任まかし。剛臆ごうおくの坐まを定さめ。士卒しその軍功ぐんこうを評ひやうさく。  
凡おほ此度このたびの軍功ぐんこうの平泉へいせんの柵さくを火攻かこうし。賊主ぞくしゆ経任けいじんを討うち。朝夷あさひら生な第一番だいいちばん  
ある。その次つぎの反賊はんぞく時夏ときなつを執とりて。前行ぜんぎやう贖あがなひ。吉見きちみ殿とのるべを彼かの  
和田わだの陰見かげみこまの貴分きぶんの公族こうしゆく士卒しそと共ともにさる。第三番だいいさんばんの城しろ戸かど第四番だいいしばん  
五番ごばんの水草すいそう太郎たろう五木いつきが武功ぶくう尤なほ高たかし。第六番だいろくばんの海老尾えびお加世かよ九く。  
計けいを行いひ。第七番だいいちばんの江三えさん二に及およ馬ま艱が標ひょう吉郎きちらう第八番だいはちばんの河邊かべ小こ。  
軍監ぐんかん佐味さみ生な第十番だいいじばんの間中まなちゆう隼人すんにんこの他の士卒しそも存ぞんヨリ。こゝに只ただ假かり小詩せうし  
いづる愚意ぐいを任まかし。柳營りゆうえい親家しんけ卿けい小使せえあひく台命たいめい小依せ。  
時夏ときなつが首級くびぎの外ほか鬼六おにむ。武詮ぶせん昌之まさゆきの五十五ごじゅうご六む。高吉たかきち又また高利たか。鶴つる。小使せ。

射す。鳴夜又嗣忠が斬首五級既小実檢しをらんぬ只恨ぐくのみぞ鐵槍を  
 藤五と象子彈平太が首を獲ま又この圍坐小第一番の席を空しうをん  
 亦是ひらの憾んといふ義邦外面見出しく現朝夷ハ経任を獲るあり  
 この外へ立ちうさうらひりたり某いゆれく誘引せんと三もあはれぬといひかけ  
 立んとさる光仲ハ邊へ推禁め冠者さのさか勞しゆひを繼彼人よひ踏で  
 光仲を憎むも冠者小辞せど又さう小何國へさう赴くべし顧ふ逃  
 賊徒代追めく柵外みそせめゆめゆめ今招むとも遠うさうさう小集合ん  
 只公のまはハ籠姫のく入るか。その恙あるはハ標吉郎小使りかど村落  
 尼をあふふ藁二郎のく隸むハ非常の患ひを禦ぐみ足ら鎮守府の城小  
 送りくよれ又勞し進むさる迎へしゆゆ人といふ義邦この後小後ひく廣  
 光と嗣忠ふ云云と分付ま光仲も亦士卒小下りく轎子を求出さ。雜在野

廣光ホ又後へ遣けり。程小火を滅留する一隊の士卒ハ経任ハ婢妾  
 二十餘名を擄取て本陣小牽りく才の云云と報へ光仲端らう出く。  
 水を被死く燬を脱し下るるその本貫素性を嚴に質問ふこみ良家  
 の女兒めく経任小男各奪らま巴に成るを後小拘く。隙もあは逃入んく。  
 豫く公をありさうも竟小便をばさうといふ。又焼死せ婢兒ハ怨ふ  
 悉く汚穢をさる経任ハ使を身の榮ふせりの共あありけ光仲既よ  
 たる瓜實しくさうも嘆息し嗚呼賊中も清濁ある軟天ハ善小福し必  
 途小禍まその心報くくの如くおそくもる内懼るべし。さうを警入ん  
 軀く件の婢妾ホを高吉小預けり。後小その親里へみか送り遣けり。か  
 又光仲ハ生虜の賊徒を責く鐵槍矢藤五が事代向ふ渠まいぬさう。



経任が石室小流めぐる。幻術の秘書を竊取り、判経任を欺き、その隊兵  
五七人と共小厨川の柵を越え、二千金を掠奪す。逐電をこころし給ふといひり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。  
その画を又矢藤五が相貌を問究め、士卒の中画を好むものあり。

高利のいふやうに陣中糧竭けけの炊を缺んとせし、賊徒の財宝を焼  
失し、この兵糧の乏しき士卒の苦戦を憐れみ、天の賜よとあはれ、鎮  
守府にも食えんとし、さうさうと送るべく、急小下河辺高吉を召  
よりに云々と分付し、高吉、一倉ある米を車に乗し、馬に負し、  
鎮守府へ送り、程小近郷の農民も、曩小逃去し、賊兵を或は殺し、或は  
擄捕し、牽きつゝ、の百四五十人、及び多し。光仲は、賞賞し、人別米三斗を  
取せし、高利竊小諫し、のやうに。経任既小亡び、とて、厨川の柵に象子  
彈平太員持あり、曩小躬方の弱り、兵糧の竭たる故に、今百姓  
們が偶中の功を賞す。可惜夫食を費し、賢慮つわく、さうさうと  
いふ、光仲微々、犬てのやうに、逐理義小稱す。さうさうと、功あり、のを賞す。  
何をかく善を將大と死且、この米穀のみ、経任小虐畧す。原是、民の米穀  
あり、彼が物を彼小返すを費す、といふべし。光仲は、武運竭む、の、小兵  
糧有餘、さうさうと、厨川の柵を落し、亦復、戦の兵糧を、獲つべし。惜む、さう  
と、説示せ、高利言下、小心服す。その大量を感し、浩如、馬養、嗣忠、かたり

本も。まうんづらとあわとひふ光仲躬と陣所ふく。義邦と共ふこと成す。ふ  
 嗣忠がいつか其ホ。篋姫を迎とす。なまらん。豫く朝夷生。使。ま。みく。  
 中尊寺村のあふさる。村落小舟ゆれ。尼が菴やあると向ふ。さるめ。あふと  
 のう。いと訝しく。あふの。廣光共侶彼此を隈ろく。索巡る程。小引入る。樹立の  
 間ふ。いと。ま。ま。堂あ。り。本尊の御體三尺あ。ま。を。観世音立せ。あ。い。  
 篋姫の。ま。居。る。塞銭櫃小身を倚ろけ。熟睡し。く。を。り。ま。又。藁二  
 郎と。ま。ん。縁頼小尻をろけ。こ。ま。も。く。睡ろ。く。を。り。廣光也。こ。呼。覚。藁  
 二か。と。や。姫。入。を。芥。舟。置。な。ま。ま。の。小。侍。ひ。あ。あ。した。と。向。て。藁。二。も  
 姫。入。も。頭。を。擡。け。四。下。を。廻。視。く。大。さ。さ。る。ま。ま。の。敬。篤。死。藁。二。郎。先。の。の。ち。  
 朝。言。ぬ。の。指。圖。小。任。く。姫。を。潜。一。存。ま。し。ん。則。こ。の。如。る。り。尼。も。今。ま。で。こ。ふ  
 在。り。ろ。昨。夕。と。す。身。も。心。も。疲。勞。て。ま。ま。も。目。睡。り。呼。覚。さ。ま。ま。熟。視。れ。

わ。ま。芥。舟。い。ろ。異。こ。ま。ま。不。思。議。と。い。ふ。の。と。吾。倚。も。ま。ま。の。と。い。ふ。  
 又。姫。入。小。舟。な。ま。ま。藁。二。郎。が。い。ろ。小。違。つ。と。あ。の。の。尼。の。いと。懇。小。昨。夕。と  
 今朝の炊もも。ま。ま。沢。芥。摘。り。て。ま。ま。管。待。れ。ん。夢。ま。ま。欽。の。こ。ま。ま。と  
 宣。へ。ろ。ま。ま。雑。兵。を。遣。し。く。近。れ。里。人。ホ。を。召。し。り。の。件。の。堂。の。縁。起。を。向。し。ふ。  
 里。人。ホ。答。て。云。原。こ。の。觀。世。音。井。の。圓。通。寺。の。本。尊。と。同。木。同。作。の。靈。佛。あり。  
 秀。衡。ぬ。世。小。舟。ま。ま。の。判。官。殿。義。經。武。運。長。久。の。祈。願。所。小。廻。當。寺。と  
 建立。こ。の。佛。像。を。安。措。く。新。圓。通。寺。と。號。け。り。秀。衡。乃。ま。ま。の。後。  
 判。官。殿。も。り。程。ま。滅。亡。の。の。こ。の。寺。遠。小。頰。破。く。その。堂。を。の。ま。ま。遺。  
 せ。と。い。へ。り。か。ま。芥。舟。の。尼。と。ま。ま。の。觀。世。音。の。化。現。ま。ま。の。姫。入。の。こ。の。年。来。  
 觀。世。音。を。信。し。ま。り。且。彼。寺。の。判。官。殿。の。あ。ん。の。小。建。ま。ま。の。の。の。ま。ま。の。  
 令。弱。ふ。を。り。ま。ま。の。姫。入。小。舟。因。縁。あ。ま。の。利。益。ま。ま。の。ま。ま。又。彼。靈。佛。の。



新圓通堂

乃其師也  
 後院院人  
 建久二年三月十七日  
 福祿壽平春指  
 此和歌在  
 月乃大  
 好

賽



圓通廢寺  
 小西使  
 篋姬小謁也

初小朝夷生をり。経任を撃せんとも。この柵中の繪圖を取らんと。妙智  
 力を添もの。牧のあはるのとも。彼靈佛の西足小田の泥乾張著く  
 あや。又その袖小芥の葉送らる。かゝる奇特小姫うへ感涙を堰あふれよ  
 こと。ともあま。今日つ日をえぬも。この御佛の利益なり  
 けん人よ。要時等。普門品一卷をこみ讀誦なり。この大慈悲の影を  
 仰ん。あふ尊やと身を投備く。あま。二葉二郎も。讀歎隨喜の思ひを  
 起。雜兵小至る。深信膽小銘し。姫入讀經小程あま。其先  
 走。成は。を報せると言來。速く。義邦耳を側り。  
 うち驚くまで深信の心報空。今更に感悟。光仲も又信く  
 破。次の日件の里人ホを召し。圓通庵寺の觀音へ米錢夥。其  
 寄布も吉見殿夫婦の為。永々香華をまわらせ。と。叮嚀小下知らる。

又この曉小柵外。陣營を守り。二百餘名の瘦士卒。八鬼六が一隊。乃  
 賊軍。追走。泉川の上。小夜を明。か。時。平泉の柵小入り。  
 件の靈驗を傳。小心清。く。あま。舊病頓小本復せり。これ亦  
 觀音薩埵の利生。と。入み。い。け。程小江。三。廣。光。二。葉。二  
 郎。共。小。薩。姫。の。轎。子。を。ひ。き。り。相。後。く。り。來。ぬ。先。仲。ハ。嗣。忠。武  
 詮。小。門。内。小。出。迎。一。躡。く。その。轎。子。を。帳。中。小。扛。入。さ。せ。義。邦。共。侶。對  
 面。と。夫婦。再。會。の。情。義。の。ま。ご。告。ぎ。と。い。く。濃。之。疇。昔。離。居。の。悲。歡  
 既。小。去。く。淚。坐。小。た。り。落。ら。り。分。鏡。の。合。さ。り。と。久。直。愛。苦。を。一。朝。小  
 説。盡。さ。へ。く。亦。鳥。鳳。並。翔。の。日。歡。喜。小。千。載。の。齡。を。延。る。心。地。と。め。り  
 此の條。狀態。ヨ。ヌ。カ。り。細。小。写。さ。び。あ。り。く。あ。ま。者。官。宜。想。像。と。い。ふ。か  
 次。の。日。小。間。中。隼。人。守。直。ハ。廣。細。の。使。者。と。く。鎮。守。府。よ。り。來。著。一。經。任。請

伏の慶賀を述べ、光仲義邦のさうり。詰將士のみか對面して、異を祝し。その軍物語、陣中の苦を慰めけり。光仲の便、蘆姫を鎮守の府城へ送り遣まべく、今雲時朝夷の待てを救ひ、これに報ひを面前小述もせめ、辭せどいふ恩を受て。恩を知ぬ、似てと廣光といひせし、光仲これを義ありと答て。敢又促さず、守直ゆ、義秀の武畧大勇、義邦の復讐、藁二郎が忠義まで、諸將士の軍功を、使らるる小前司殿、廣綱、小吉、おのせし。知れ、鎮守府へ返りけり。かとも、義秀の再び、光仲遂に疑念起り、義邦と相譚り。廣光嗣忠藁二郎を召近つけ、朝夷生ハ豫より、冠者を救んと欲せ、武略の外、小吉、同、會と、答ける。中、嗣忠、且く頭を傾け、某前夜朝夷、小

越の相向許消息を云と告り、その事、あれより、彼人も越路逢ふ。光仲頭をうち掉否、朝夷ハ義勇の人あり、縦この春越路、婦ハ病の床、小あり、と、侍、小別を告ぐ。そが、か、らんや、必、光仲を憐憎、悪むのあまり、近郷、某、某、お、藁二郎を、その旅宿を、索ね、近郷を、義邦この議を善くと、某夫婦、朝夷生ハ大恩を受、彼人推辭、下河邊高吉を、

あろをぬき。雑兵數部し。入る小後。且。義邦の廣光と雜兵と戰つて。後門より。程小高吉の藁二部を奪内とす。されも。雜兵數部。一の城門。よ。又光仲ハ佐味高利と武詮昌之嗣忠ホを取會て。い。盤手郡厨川。多。柵。ハ。經任ガ偽將。象子彈平太員持。あり。思慮。あ。ぬ。本柵を逃亡。賊徒彼知。集。一朝。小攻破。か。れ。後。よ。この。左。右。事。多。て。二。日。を。過。し。朝夷。け。あ。も。い。で。本。の。翌。ま。で。の。俟。た。し。この。曉。昏。し。人。馬。を。進。通。宵。路。次。を。急。ぐ。佳。例。ハ。任。先。陣。ハ。武。詮。昌。之。と。定。め。ま。が。陣。徇。を。さ。り。ける。程。小。日。ハ。西。山。小。傾。比。下。河。邊。高。吉。ハ。藁。二。部。と。共。は。か。り。牙。小。光。仲。と。是。侯。つ。け。その。消。息。を。い。ふ。と。向。小。高。吉。ホ。義。秀。ガ。頃。日。旅。宿。小。せ。の。百。姓。の。家。へ。さ。ん。近。江。村。を。う。ち。巡。り。索。し。ぬ。その。性。方。も。さ。

より。あ。小。厨。川。ハ。進。後。と。と。俄。頃。小。陣。徇。し。あ。と。生。り。あ。あ。小。を。歩。を。い。て。死。く。か。り。牙。の。と。の。小。光。仲。は。く。る。失。ひ。さ。る。小。三。郎。ハ。標。吉。郎。と。共。小。の。柵。ハ。留。り。生。虜。の。賊。後。を。禁。錮。し。翌。日。つ。め。く。冠。者。夫。婦。を。鎮。守。府。ハ。送。り。や。ぬ。と。と。備。が。出。陣。せ。後。小。朝。夷。生。り。來。ま。が。等。閑。ま。ぬ。光。仲。ガ。心。操。を。告。う。と。叮。嚀。小。命。し。士。卒。六。七。十。名。を。高。吉。嗣。忠。小。隸。と。留。措。兒。高。利。武。詮。昌。之。ホ。と。そ。の。他。の。軍。兵。數。部。を。か。ん。と。折。り。朝。夷。三。郎。義。秀。ハ。腥。々。を。斬。首。一。級。鐵。撮。棒。の。頭。小。著。る。を。突。立。て。義。邦。廣。光。共。侶。小。欣。然。と。し。か。り。果。り。士。卒。云。と。告。り。光。仲。急。小。入。馬。を。退。け。慌。忙。死。出。迎。へ。引。く。寶。席。小。請。ま。ま。義。秀。と。二。つ。び。讓。り。ま。す。か。り。小。著。ぬ。義。邦。ハ。その。左。小。在。り。廣。光。ハ。その。後。方。に。高。利。ハ。義。邦。と。向。ひ。ま。を。り。嗣。忠。武。詮。昌。之。高。吉。ホ。ハ。その。後。方。に。は。り。ち。

姓名を告ぐ。義秀を敬ふと甚し。當下光仲がいつか。朝夷が別後の會  
 話も小説盡く。是れは量め。冠者夫婦を救れ。賸妖賊経任を殺す。  
 多の。武畧勇敢古今無雙といひ。便是當時第一番の大功なる。  
 ありまとも賢兄の光仲ホをふり捨。この地由れ多ひ。今やも往方を  
 知る。この故ふきの。渴望の。已と。冠者を労まるとあり。  
 既めと鳳眉を接へ。又明教を受んと欲ま。救び足。と。速く  
 ろん。義秀の。うち合笑。某もいぬ。杖を當國小。聊  
 ら。あ。絶て和殿を訪。和殿の約。命を惜。途の難。義小友を捨。勢利小。今如此。こ  
 の。吉見主。後。迎られ。その誠心を生。疑心立。地小氷。解。現介  
 あり。和殿の。友を。不義。と。初小。交。を

結び。こ。亦思入。その疑。を。至。こ。亦思入。幸  
 め。世の識者。小背。指。を。と。第一番の。歡。び。又。義。死。ともあり。  
 今。彼。知。り。立。ち。吉見主。後。小。和殿。の。鳥。鵲。川。の上。ゆ。こ。養  
 母。小。危。窮。を。救。云。云。の。あ。と。飲。年。来。環。會。ま。欲。と。四。國。鎮。西  
 の。盡。か。ま。編。壁。し。義。秀。の。母。の。面。影。い。ふ。も。和。殿。の。識。り。の  
 ら。ぬ。小。母。小。對。面。せ。と。是。第一。義。の。好。話。ゆ。と。美。次。死。限。り。と。い。れ  
 と。こ。母。の。後。往。方。と。い。靴。を。隔。と。癢。を。搔。と。い。古。語。の  
 似。る。の。母。の。の。麻。ゆ。と。ゆ。め。某。の。の。曉。小。経。任。を。殺。し。と。死。直。は  
 走。り。と。和。殿。の。あ。と。厨。川。の。柵。を。賊。將。伏。又。と。第。多  
 ゆ。象。子。彈。平。太。員。持。と。の。盜。賊。奴。が。夥。の。賊。徒。を。殺。し。籠。れ。り。寄。り  
 多。負。戦。死。多。かり。追。捕。等。麻。ゆ。と。時。日。を。過。さ。平。泉。ゆ。討。漏。され。し。

賊卒彼知へ集合るべし。備志なきは、員持ホハ経任滅亡せしと傳へるが。  
 逃矢ざるよりある骨折序小彼奴を殺し、吉見殿の鎌倉へ歸參る。  
 累小取らせんと心むら小名ひら、斧の尾が贈り、平泉の地圖より、  
 厨川へ往返る。不思嫁の捷徑あり、成疎てより知り、繪圖小隨ひ直走して  
 昨夕厨川の柵小赴れ偽り、平泉より火急の使んと、呼門小城門守り  
 の賊卒ホ、佻々く内小入し、平泉のおん使るが契あらんせよといふ。  
 これこのふゆえ諾り、とるを氣多く答へ云、汝達いまぞ知ざら、汝使小  
 契を賜る、平日無異の時小あり、いふせん、平泉の柵、今曉寄小攻破  
 らんと、修羅公戦歿多り、某ハ吠又ぬ、の密意を受、いの本、象  
 子敵小拜謁し、いふと、いふと、いふと、捷徑より走死れり、とく  
 入る、いふと、いふと、いふと、賊卒、いふと、いふと、いふと、  
 弾平太ハ腹心の賊僕ホ、燈燭を秉り、端近う、業内せ、賊卒を  
 退し、軀く某を縁頬へ召登、いふと、いふと、いふと、  
 措こそが、俣、いふと、いふと、いふと、  
 豫て、面を識る、いふと、いふと、いふと、  
 密使小立ら、いふと、いふと、いふと、  
 と、敵の姓名を、いふと、いふと、いふと、  
 果む、衝と寄せ、いふと、いふと、いふと、  
 平泉の柵を火攻し、修羅五郎經任、只一刀小誅し、朝敵、  
 是又汝、誅戮して、盜賊の根を、いふと、いふと、  
 人でも、敵を嫌、いふと、いふと、いふと、

程あましく、角門より、某を呼入れ、引と客房のほり、小到りぬ、當下、  
 彈平太ハ腹心の賊僕ホ、燈燭を秉り、端近う、業内せ、賊卒を  
 退し、軀く某を縁頬へ召登、いふと、いふと、いふと、  
 措こそが、俣、いふと、いふと、いふと、  
 豫て、面を識る、いふと、いふと、いふと、  
 密使小立ら、いふと、いふと、いふと、  
 と、敵の姓名を、いふと、いふと、いふと、  
 果む、衝と寄せ、いふと、いふと、いふと、  
 平泉の柵を火攻し、修羅五郎經任、只一刀小誅し、朝敵、  
 是又汝、誅戮して、盜賊の根を、いふと、いふと、  
 人でも、敵を嫌、いふと、いふと、いふと、



或は掩り殺さん秋好も小任りと瞬間に死人ぞ山を築き遊ん覺期をせよ。  
 と罵まば彈平太ホの勢を取らましく齊一眼伏し或は呆れ或は怒り  
 原來癖者逃さまると敦圍さましく立んとせり。彈平太が足を拂て山麓  
 の似筋斗打し起んとる或起しも立ま縁頼小倚るる鐵操棒を擡取て  
 項を礮と打し頭骨を撲ぬる首の空さぬは飛揚り。軀は俯し倒れたり。  
 衆皆これ駭怕ましく逃んとるを追蒐追詰當坐し七人打殺し庭よ  
 閃りと下り立ち天地小響音けと声をあま立平泉より妖賊経任又よの柵  
 めの彈平太ホを天意は任し義秀が如く誅し。闇魔の廳を  
 開きとく衆皆おとと呼ま柵中の賊徒四五百人其勢を憑む劍戟三味  
 一個の敵と侮まらん數を盡しと群と彼此より聚まの推取籠て替んと  
 競ふをどひの隨より引つくと一棒毎に五人三人殺さばとのめとあまると

衆賊おそましく崩まると慌忙に逃ると前より立し二十人庭なる  
 池の滾落と沈つ沈つ溺るるを後まのめまると疾逃んと推  
 程に推落まると水小溺と推落まると已も亦滾び入る沈むのめまると  
 のみ数をあまど残るの僅に五六十大地小平伏し當合しと助けま鬼  
 百合の露を染る血の涙もそのあまると藤棚まると蔓を夥引ぬる  
 珠數繫れ縛りめ皆樹下小懸留めるの隠まるとそのあまると石  
 燈籠まると燈蓋を擡起しとこまをり漏れ曲る求獵し残る奴原の  
 落亡し外へ人氣あるをんまるとその曉も近郷小走りたて  
 里人ホを喚起しと説示まると皆驚おどろく一殘れ及ば彼まると古まると  
 知れまると義秀が後まると從の二三十人おれけまると生拘る奴原まると里人を  
 附措れて且く柵を守りまると藏人の軍監共侶厨川小赴れまると古又の

義秀再  
衆賊成  
鑿不支

ねひあ



道なりぬ  
たえ乃  
猿を  
加主人の  
みろこれ  
まろまろ  
賈朝夷義秀  
剽盗譚  
玄同居士

光景を檢てみるべし。彈平太が首級をのこ。如此の事の證干すべし。鐵横棒小結びさげたり。彼見多と指し示せば義邦高利のさか。この席ありと存るもの。あつく膝の進むを覚む。その勇敢小感服し。其のる。その中。先仲の件。物語成り。仲のく。殊更に驚嘆し。人の智恵と武勇と。かまぐ差別あるもの。秋某此度追討使と。行く。軍兵多た。鎮守府の守兵と共。二千餘騎。小及び。一。時。七八百騎。五六百騎。あり。さ。勝負區々あり。遂に賊徒小。苦しめ。自ら殺せむ。と。朝夷。ハ。單身あり。初。後。ひつる。の。藁二郎と。二。標吉。この。三人。小。過。か。輒。賊。柵。を。入。吉見。敵。を。救。ひ。か。更。火。攻。め。衆。賊。を。屠。り。刺。徑。任。を。敷。く。多。い。その。武。勇。も。人。力。あり。ぬ。進。て。厨。川。を。賊。將。彈。平。太。を。誅。戮。し。其。れ。

小の衆賊を殺剿せり。かの如死勇將猛者ハ和漢今昔小類あり。神武英略一人の。光仲が如死の火をり。賊を攻撃し。と。之。び。あ。ま。さ。り。功。あり。就中兵糧車の拙策ハ已。を。び。さ。る。小。む。さ。り。さ。ま。ふ。あ。や。か。謀。行。き。と。奥。より。放。し。火。を。貸。く。車。の。火。止。薬。は。殺。し。一。の。城。門。を。賊。兵。を。燒。走。せ。り。も。奇。き。妙。あり。今。ハ。出。陣。を。急。ぐ。も。要。あり。夜。と。共。小。話。り。明。さ。ん。平。坐。更。と。管。待。し。ら。う。が。彈。平。太。が。首。級。を。受。く。藁。二。郎。を。も。圓。坐。ふ。侍。せ。仏。陀。の。靈。驗。四。士。の。復。讐。言。み。る。義。秀。小。答。る。程。小。實。主。短。夜。の。曉。る。狐。お。ろ。え。度。その。詰。早。光。仲。高。利。小。厨。川。の。柵。小。越。く。及。び。く。さ。ら。は。此。條。の。物。語。ヨ。リ。か。り。その。編。を。嗣。死。卷。を。更。く。第。五。編。の。そ。め。小。ら。ん。明。年。葎。兌。の。日。を。俟。べし。

編述 曲亭馬琴稿本

庚辰夏肆月脱稿 淨書 出像 隨成

出像 一柳齋豊廣画

浄書 江戸 千形仲道

割劇 京師 三四五 井上治兵衛

刊字校訂 大坂 一二 山崎庄九郎

文政四年辛巳春正月吉日發行

刊行 江戸馬喰町三丁目 若林清兵衛

書肆 筋違御門外神田平永町 山崎平八

大坂心齋橋筋唐物新 河内屋太助

朝夷巡嶋記第五編 第四編中より秀光伸及時政より時々のつらみとて全くその趣をつくまむこの編に至ると佳境あり作意の摠要ありあり明春出版遂帯より

里見八犬傳第四編 五冊 製本出来よの節より

家傳神女湯 一包 婦人諸病中より第一産前産後ちのみち小妙たり又産後百銅 某とあるは功の神妙なり

精製奇應丸 某とあるは家傳の加げん小妙なりその功のつひのきむるは百倍と〇大包三百粒余入代式身中包三十六粒入代式身小包十粒入代式身

婦人死虫妙藥 婦人毎月つら虫ふふりちて即ちあつたは神の下り又産後小妙なり

熊膽黒九子 くまの胆の正まらざるをそと用ひて製成の加げん家秘をつくせり

製劑并弘所 江戶元飯田町中坂下南側四方みそ店 瀧澤氏

病架必用 江戶神田 謙齋瀧澤興繼宗伯著 画圖入 近刻

秘竹及名方 右同著 經驗の良薬とて集心濟急茶餅小便宜の書也 未刊

曲亭翁画頁扇取次仕 浪華書林 文金堂森本太助 欽白

東洋書林 大金皇極本

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

藏書必用

東洋書林 大金皇極本 大垣 大垣 大垣

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

藏書必用 藏書必用 藏書必用

人未一也 朝  
來也

